



NEXTリーダーが
オンライン&オフラインで
集まり、語り合う

若手教師・教育創造MTG ミーティング

現場の思いを率直に語り合う若手会議、次号からスタート

新学習指導要領の実施まで残り2年となりました。移行措置として、「総合的な探究の時間」は、既に19年度入学生（現高校2年生）から始まっています。先生方にとっても、挑戦したいこと、検討すべきことが増える中で、特に若手の先生方から、「同僚・先輩に相談したいことがたくさんあるが、その時間が取れない」「日々の授業に追われ、授業力を高めたり、指導観を深めたりする機会がない」といったお声を伺うようになりました。そこで、次代を担う全国の若手教師たちが2～3か月に1回の頻度で、オンラインとオフラインで集まり、関心のあるテーマについて語り合う場をつくることにしました。そこでの語り合いの様子は、次号以降の本誌やベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでお伝えしていきます。今号は、参加予定の先生方にご回答いただいた事前アンケートから、語り合いたいことの一部を、テーマ別にご紹介します。

スケジュール

6～7月 1回目の会議の様子を、本誌6月号誌面またはベネッセ教育総合研究所のウェブサイト（以下、ウェブサイト）でご紹介します。

8～9月 2回目の会議の様子を、本誌8月号誌面またはウェブサイトでご紹介します。

10～11月 3回目の会議の様子を、本誌10月号誌面またはウェブサイトでご紹介します。

2～3月 4回目の会議の様子を、本誌2月号誌面またはウェブサイトでご紹介します。

参加予定者

北海道、岩手県、宮城県、栃木県、埼玉県、神奈川県、富山県、福井県、三重県、大阪府、島根県、広島県、山口県、福岡県の公立高校教師14人、北海道、愛媛県の私立高校教師2人を予定。



明日の教育を牽引するネクストリーダーたちが地域を超えて、オンライン&オフラインで語り合います



語り合うのは「正解が1つではない」現場の課題や願い

1 授業について

- 主体的に学習に取り組む態度を育てるため、**ルーブリック**を活用した自己評価を授業に組み込もうと模索しています。また、思考・判断・表現力の育成を確実に実現し、身につけた知識を深い学びへとつなげる授業展開を追究したいです。
- 授業でICTを活用するにあたり、どのアプリケーションを導入するか、コスト面も含めて悩むことがたくさんあります。他校の先生方は、**どのような判断でどのアプリケーションを導入し、どのように活用しているのか**を知りたいです。
- 現在「**生徒がよく生きるための授業デザイン**」を探究・実践している最中です。教育の個別最適化が進む中で、他者と協働して分からないことを探究し、新しい価値を創り出し合いながら、よりよい人間関係を構築していくような授業のあり方について考えていきたいです。

2 探究学習について

- 「総合的な探究の時間」の定義を校内で共有しないまま、言葉だけが独り歩きしているようなことはないでしょうか。現状では、**目的・目標も明確でない「探究」活動を行っているケースもあるように感じ、違和感を覚えます。**
- 「総合的な探究の時間」について、校内のほかの先生方にその意義を理解していただくのに苦労しています。また、**探究学習を進める上で必要なファシリテーション技術の向上についても必要性を感じています。**
- 本校の生徒は、地域課題を題材にした探究学習に取り組んでいますが、生徒の提案は枠にはまったものが少なくありません。実際に近隣の企業・団体と協働しながら、**地域課題の解決に創造的に貢献するような探究活動にしていくためには、どのようなアプローチが有効なのか**について知りたいです。

3 特別活動、部活動について

- ホームルームがただの情報伝達の間だけになってしまっている気がします。学校行事を始め、生徒が、**高校生活全般へのモチベーションを上げるにはどうしたらよいのか**、いろいろな先生の意見や実践を聞きたいです。
- 既存の部活動をただ優先する考えから脱却し、**生徒の興味・関心を広げるために様々な経験を促すような環境づくりを進めたいです。**また、教師自身が、それぞれ多様な生き方の中、生き生きとした姿を生徒に見せることで、生徒自身が教師の姿を通して、「多様な生き方が許される」ことを感じ取るのではないかと思います。**生徒が本来持っている主体性や創造性を呼び起こす教師の振る舞いとはどのようなもののかも考えたいです。**

4 進路指導について

- 希望進路が不透明なまま3年生になってしまい、受験勉強のスタートがなかなか切れない生徒が多いのが本校の課題です。1年次からの進路探究活動や小論文学習、探究学習、模擬試験などの進路指導がバラバラで、結びついていないのが要因だと考えています。早期に進路目標(志)を定め、**進路実現に向けて自走できる生徒を育成するために、どの時期にどのような進路の仕かけが有効なのか**を学んでいきたいです。
- 夢や将来像を持たせるために、面談などでそれぞれの生徒の個性や興味・関心を把握するように努め、一人ひとりのキャリアを生徒とともに考えていこうとしています。しかし、**自分の中から将来への思いが湧き上がってくる生徒が少ないように見え、悩んでいます。**

上記のような課題や願いについて、若手教師が熱く語り合っています。
次号から始まる本コーナー、どうぞご期待ください。